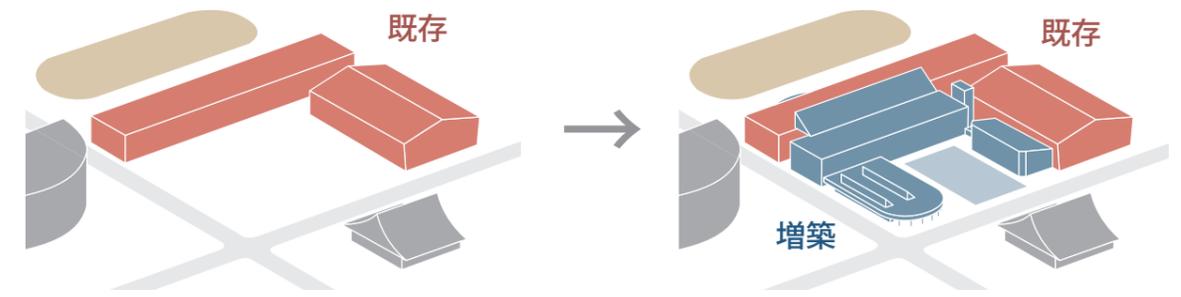


既存建物を活かして整備する新しい学校

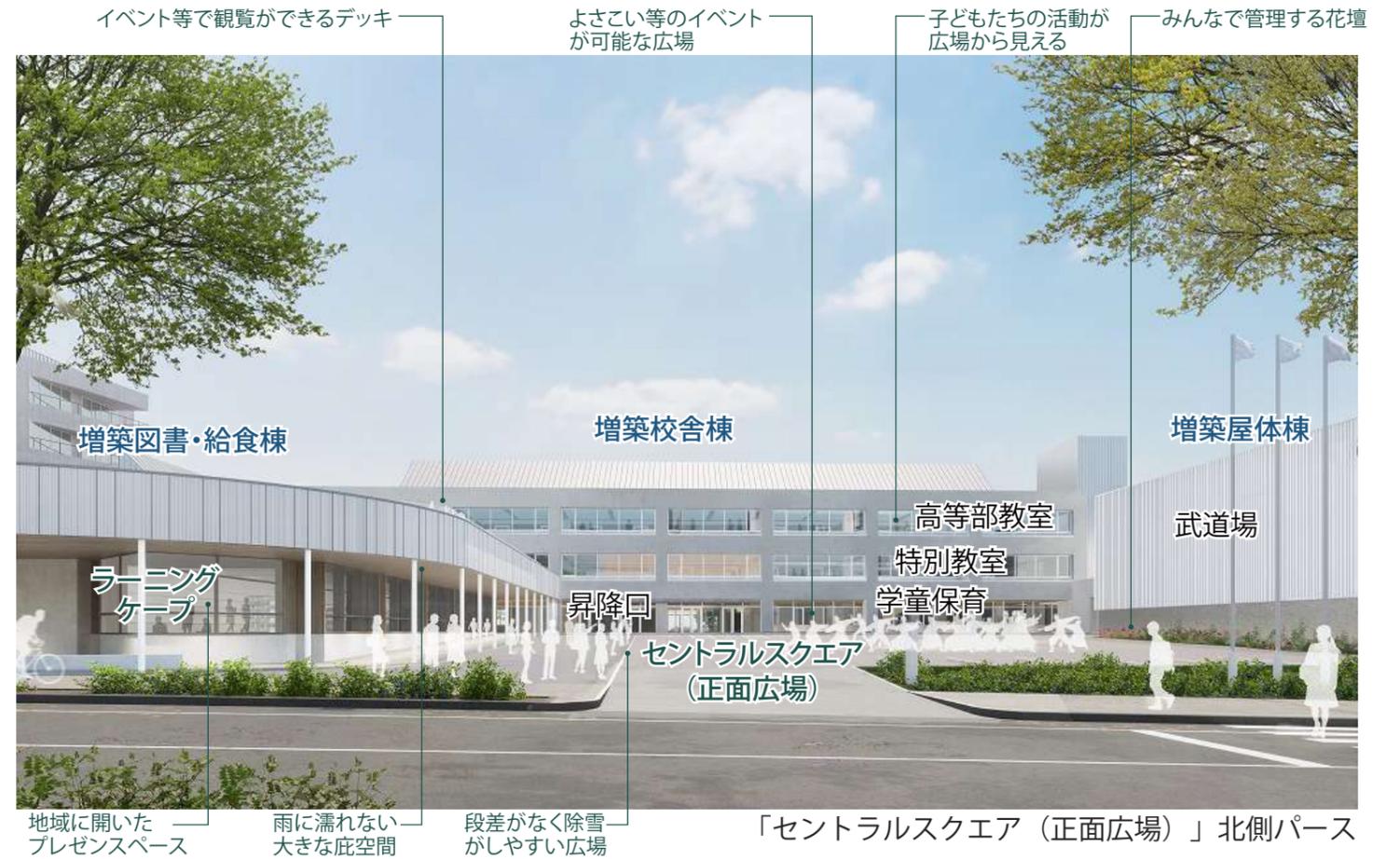
- ・ 既存建物を活かすことで整備コストを削減しながらまちの風景を継承する新しい学校をつくります。
- ・ 既存建物に寄り添うようにU字型の増築を行うことで一体的な教育環境をつくり、岩内町の新しい9年間の学びの場をつくります。



北側鳥瞰パース

「セントラルスクエア（正面広場）」を中心とした新しい学校

- ・建物正面の「セントラルスクエア（正面広場）」は普通教室や特別教室、図書室、学童保育などが面し、子どもたちの活動が溢れた小さなまちのような場所になります。
- ・広場には段差がなく日常の来客駐車場としての利用のほか、学校や地域のイベント等で利用できる開かれた場所になります。

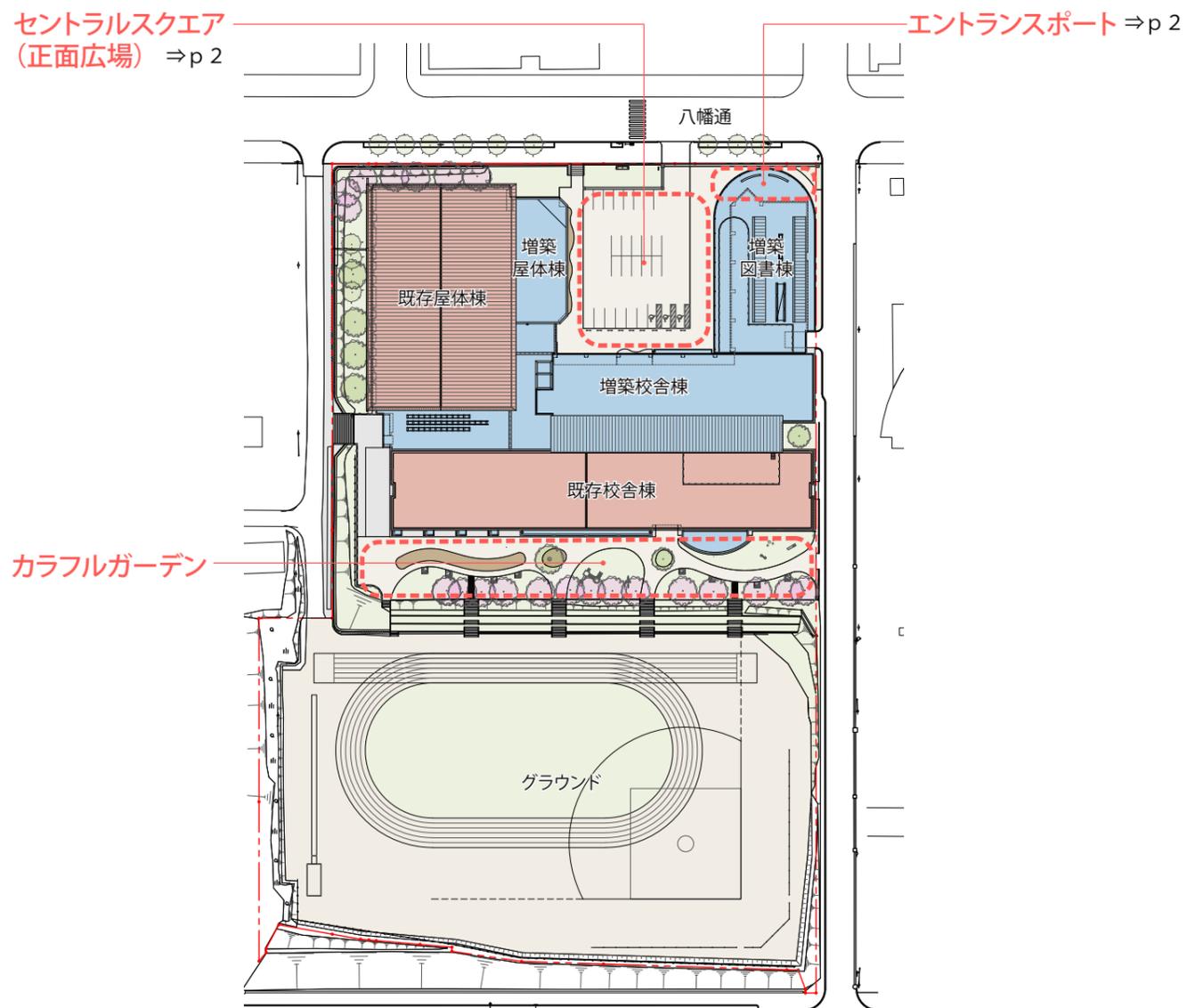


まちにつながる新しい学校

- ・八幡通側に「セントラルスクエア（正面広場）」、大きな庇のある待合広場「エントランスポート」を設け、まちに開かれた学校を目指します。
- ・町道側に車寄せを設け、昇降口まで雨に濡れないアプローチとし、日常の送迎がしやすい環境をつくれます。
- ・複数の出入り口の外、管理区画を形成しやすい平面計画とし、学校開放等、地域の生涯学習の拠点となる学校を目指します。

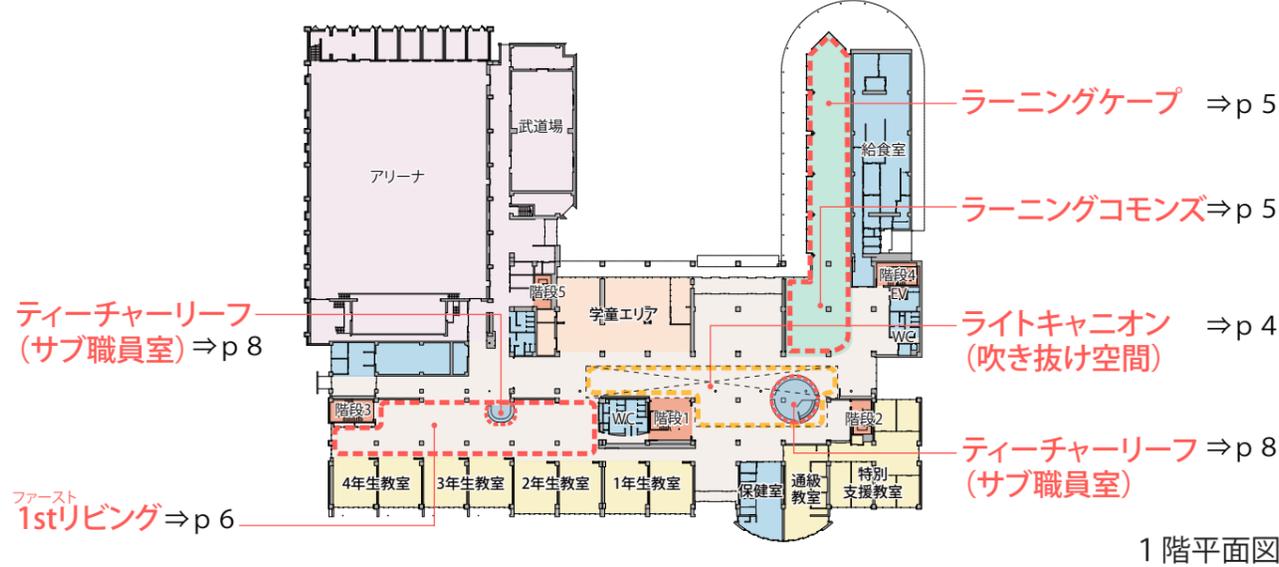
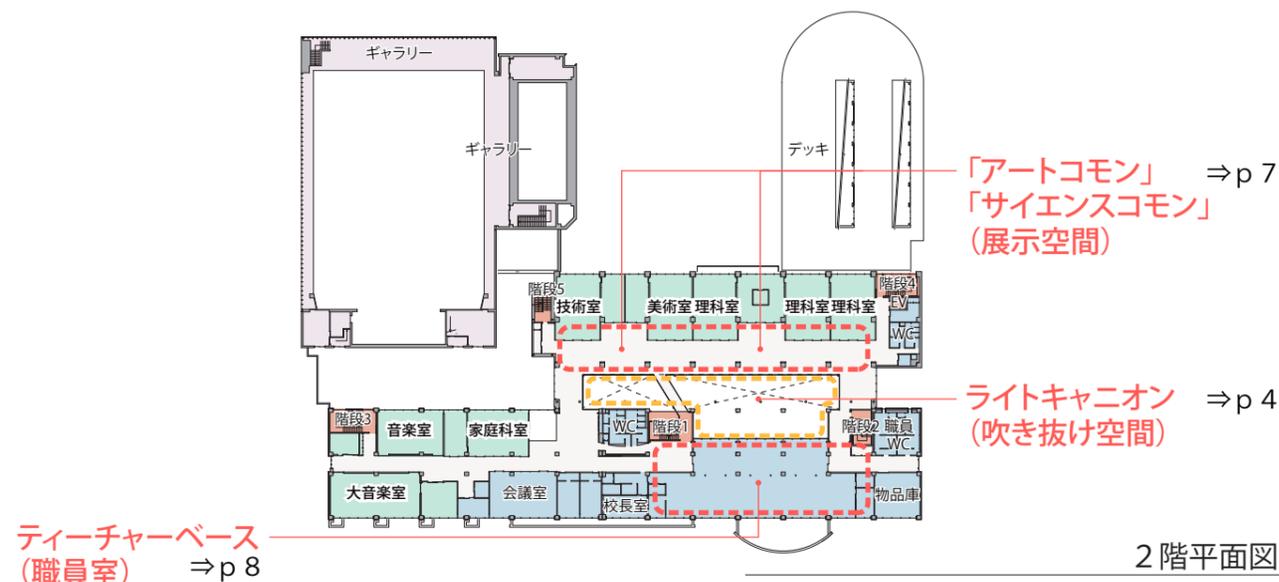
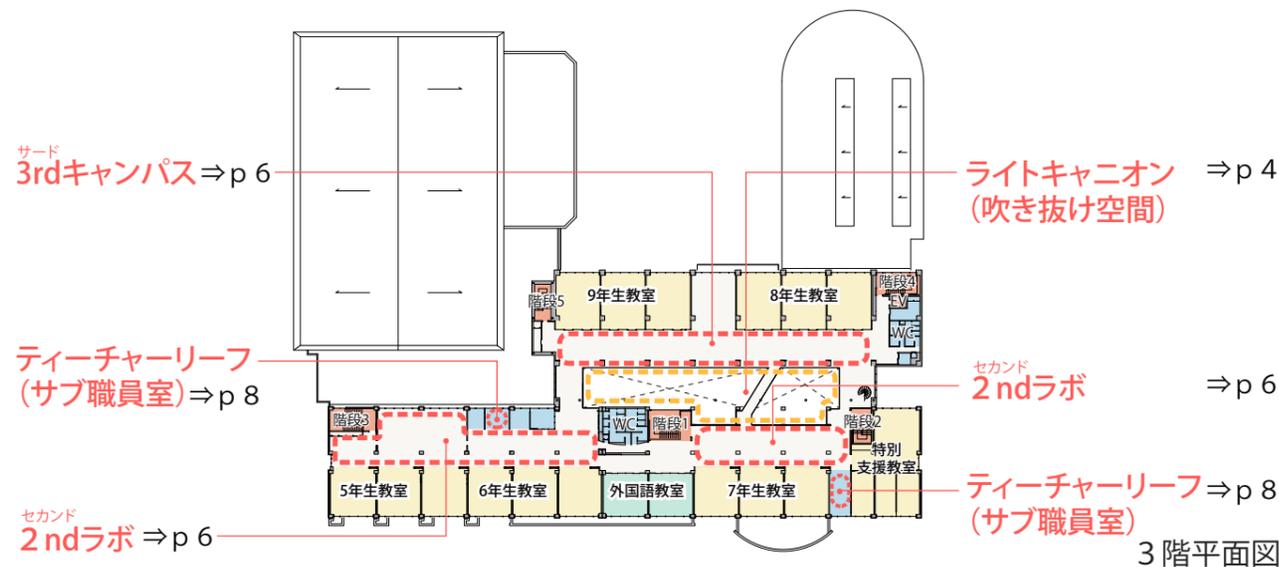


配置図及び平面図



配置図

- 凡例
- 教室エリア :
 - 特別教室エリア:
 - 管理エリア :
 - 屋体・武道場 :
 - 学童エリア :
 - 階段・E V :



新旧の建物をつなぐ骨格となる「ライトキャニオン（吹き抜け空間）」



各階の子どもたちの活動が見え賑やかな一体感をつくる

南側からの明るい光が降り注ぎ、風が抜ける

ハイサイドライト
(高窓)

ライトキャニオン
(吹き抜け空間)

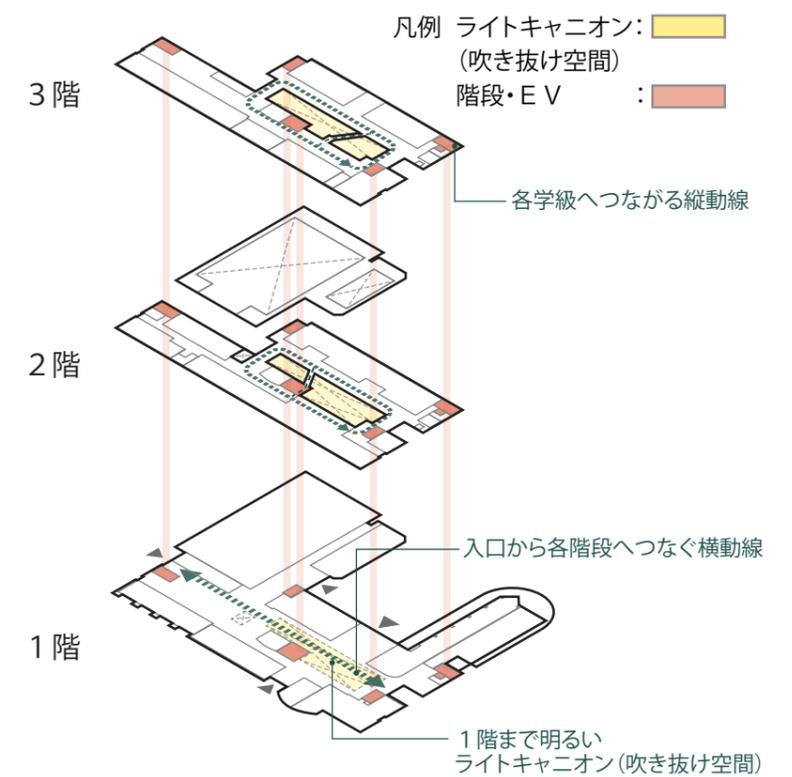
昇降口

ティーチャールーフ (サブ職員室)

子どもたちの見守りと自然な交流を促す配置

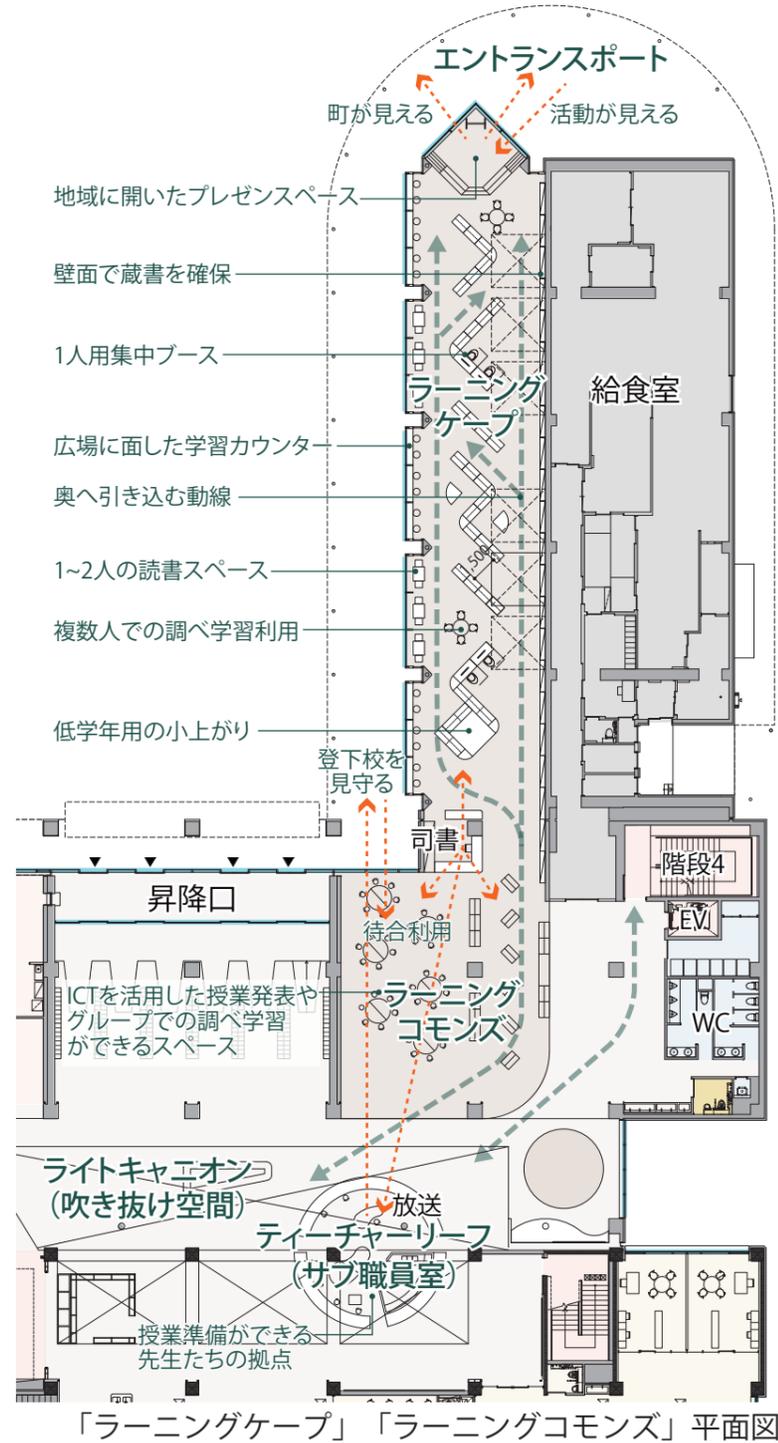
「ライトキャニオン（吹き抜け空間）」1階昇降口付近パース

- ・既存建物と増築建物の中央に新旧の上下動線と横動線をまとめた建物の骨格となる「ライトキャニオン(吹き抜け空間)」を設けます。
- ・ハイサイドライト(高窓)が建物中央に自然光と自然通風を導き、明るく快適な空間を実現します。



図書を中心とした多様な学習ができる「ラーニングケープ」と「ラーニングcommons」

- 登下校の際に活用しやすい位置に、高い透明性をもち地域に開かれた学校を印象付ける「ラーニングケープ」と「ラーニングcommons」を設けます。
- ジグザク状の視線が通る低い書架の間に様々な閲覧、学習空間が混在し、子どもの知的好奇心を引き出し相互交流を促す場所になります。
- 一人や複数人での閲覧、個別学習や調べ学習、グループ学習、プレゼン発表ができるスペースがあり図書と連動した多様な学習に対応できます。



多様な学習への対応

「多様な学びの場」となる「1stリビング」

- 普通教室を中心とした学習空間は大きく三つのエリアに分けて整備しており、それぞれのエリアには教室の一体となる多目的スペースを設け、9年間の発達段階に応じた学習空間を整備します。
- 初等部の面している1stリビングは、学級全体で行う図工の作品作りや算数での具体物の提示や操作、グループワークなど教室を拡張した利用が可能です。授業中も休み時間も、子どもたちは小さなスペースを選びながら、自らの学びを広げ、自然な異学年交流が行われる場所となります。

「学びを広げる場」となる「2ndラボ」

- 中等部の面している2ndラボのコンセプトはL字の家具がたくさん小さなスペースをつくるように並び、習熟度の振れ幅が大きくなる時期に合わせた小グループの個別学習などに対応できる場所となります。授業中も休み時間も、子どもたちは小さなスペースを選びながら、自らの学びを広げ、自然な異学年交流が行われる場所となります。

「学びを深め集中する場」となる「3rdキャンパス」

- 高等部の面している3rdキャンパスは雨具掛けや個人収納棚をまとめたパーソナルなホームベースを中心に、一人で集中できるカウンター席や勉強を教えあうグループでの学習スペース、プレゼン発表等が可能なスペースを確保し、受験を見据えた幅の広い学習を支える場所になります。



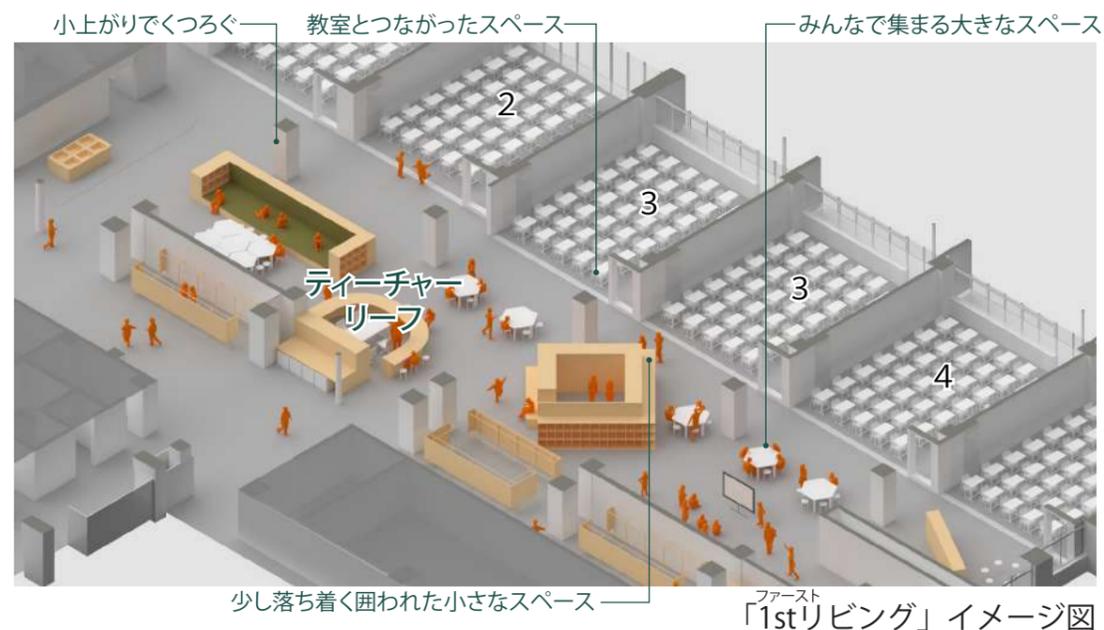
可動式のテーブルや椅子でグループ利用にも対応

セカンド
「2ndラボ」 パース



ガラスの間仕切り壁で集中した環境をつくる

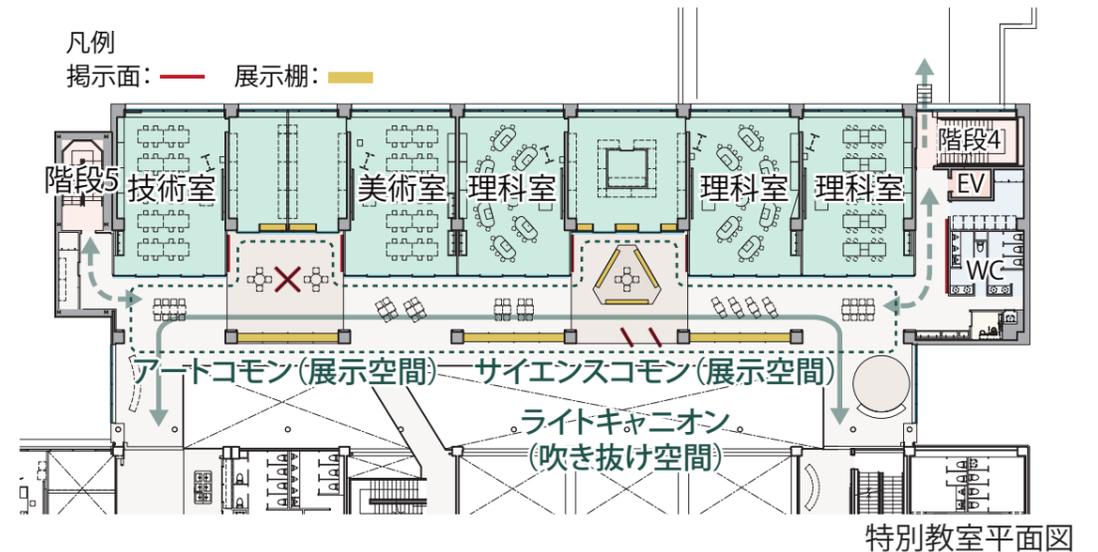
「高等部教室」 パース



特別教室を中心にSTEAM教育の拠点となる「アートコモン」「サイエンスコモン」



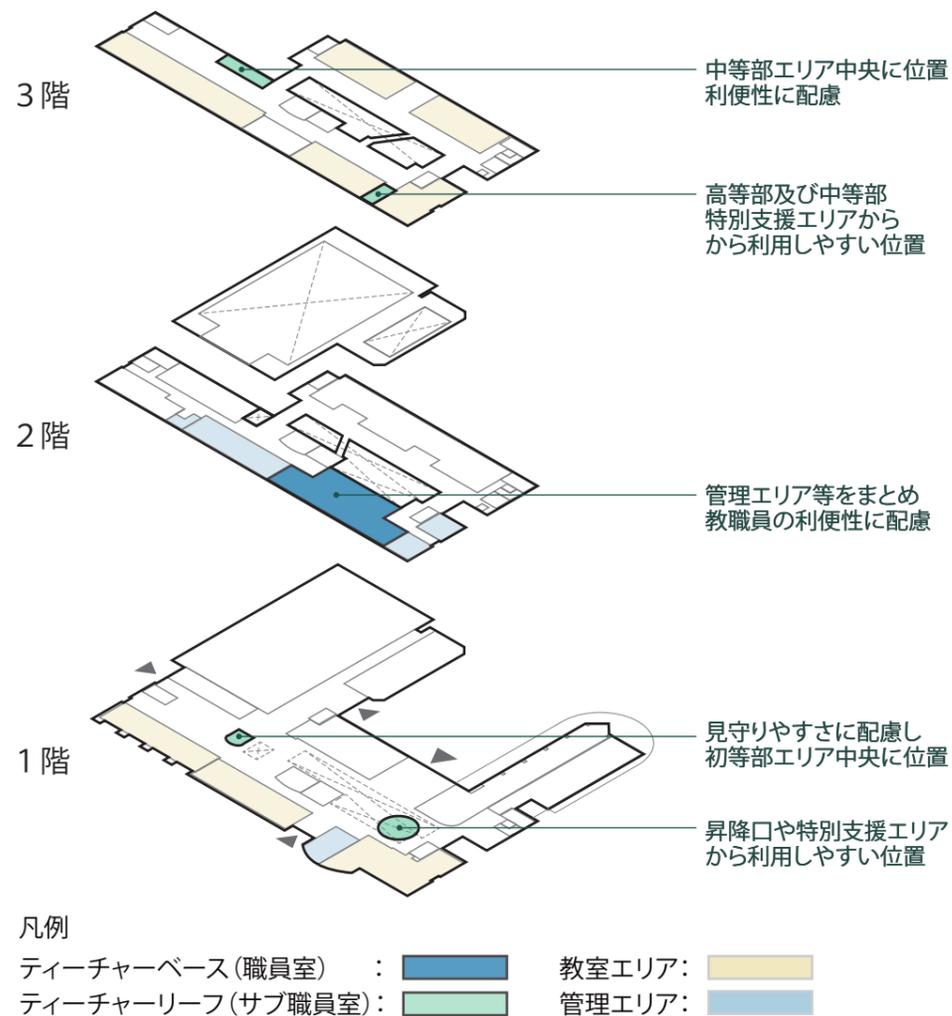
- ・特別教室は全て2階にまとめることで、各学年から利用しやすい、教科の枠を超えたSTEAM教育を実践する場所となります。
- ・アートコモンでは複数面の掲示面を持つ家具や平置きの展示棚があり、異学年の作品を通じ子どもたちが自然と刺激を受け創作する場所になります。
- ・サイエンスコモンでは研究成果の展示や理数を中心とした幅広い本を備え、横断的な知識に触れながら勉強できる場所となります。



※STEAM教育とは、Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学) の頭文字をとったものであり、子ども達を今後のIT社会に順応した競争力のある人材に育てていくための教育方針です。

9年間の学校運営を円滑化する「ティーチャーベース（職員室）」と「ティーチャーリーフ（サブ職員室）」

- ・2階に「ティーチャーベース（職員室）」を中心に管理諸室をまとめ、各階には「ティーチャーリーフ（サブ職員室）」を設け学校運営の円滑化を図ります。
- ・「ティーチャーベース（職員室）」にはコミュニケーションスペースを設け子どもたちが入りやすい職員室を実現します。各段階の教職員の連携がとりやすい机配置とするとともに集中ブースやリモート室などを設け、多様化する教職員の働き方に対応します。
- ・「ティーチャーリーフ（サブ職員室）」は印刷や教材準備を行うことができ、子どもたちの見守りや子どもたちとのコミュニケーションの場になります。

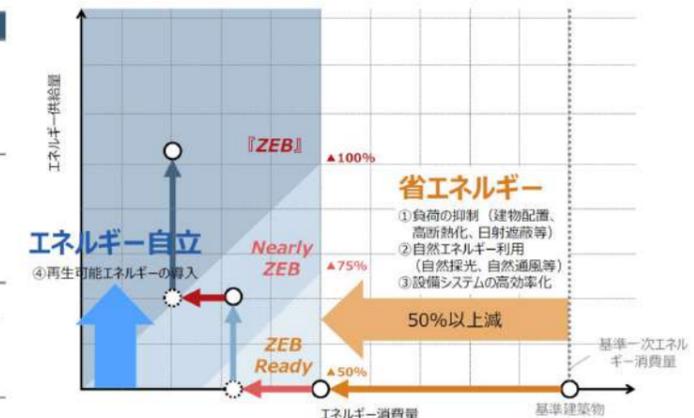


明るく快適で環境に配慮したZEBReady仕様の校舎

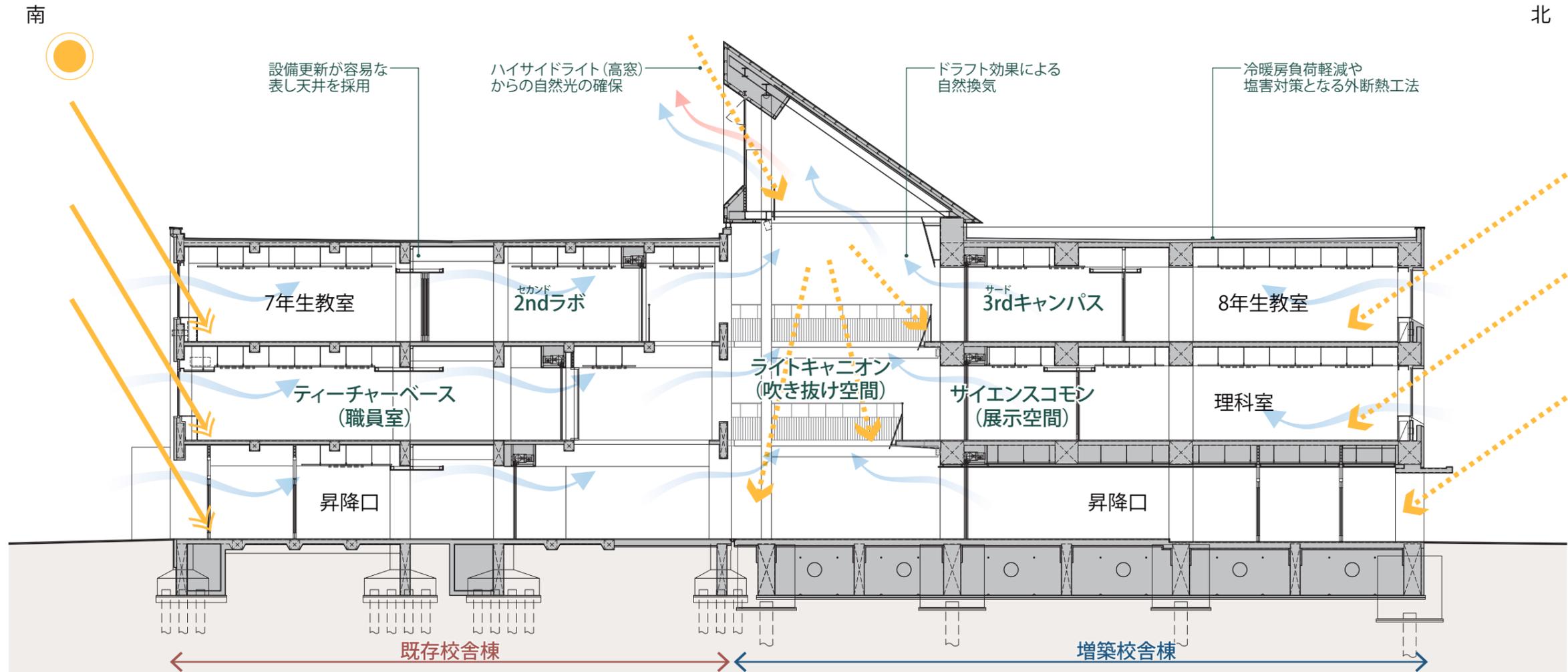
- 既存建物の一部床を撤去した「ライトキャニオン（吹き抜け空間）」が校舎全体の自然通風や自然採光を促し、明るくて快適な環境をつくりつつ、冷暖房エネルギーを削減します。
- 外断熱工法の採用や高断熱サッシなどの外皮性能の向上及び高効率設備機器の採用により、従来型の建物に比べ1次エネルギー消費量が半分以下となる ZEBReady 仕様を実現しています。

	定性的な定義	定量的な定義（判断基準）
『ZEB』	年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物	<ul style="list-style-type: none"> 以下の①～②のすべてに適合した建築物 ① 基準一次エネルギー消費量から50%以上の削減（再生可能エネルギーを除く） ② 基準一次エネルギー消費量から100%以上の削減（再生可能エネルギーを含む）
Nearly ZEB	『ZEB』に限りなく近い建築物として、ZEB Readyの要件を満たしつつ、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近づけた建築物	<ul style="list-style-type: none"> 以下の①～②のすべてに適合した建築物 ① 基準一次エネルギー消費量から50%以上の削減（再生可能エネルギーを除く） ② 基準一次エネルギー消費量から75%以上100%未満の削減（再生可能エネルギーを含む）
ZEB Ready	『ZEB』を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物

ZEBReady位置づけと定義



エネルギー自立に向けたロードマップ



既存校舎棟・増築校舎棟断面図

